

令 和 3 年

三重県議会定例会会議録

(8 月 11 日)
(第 24 号)

令和3年

三重県議会定例会会議録

第24号

○令和3年8月11日（水曜日）

議事日程（第24号）

令和3年8月11日（水）午前10時開議

第1 議案第111号

[提案説明、質疑、委員会付託、委員長報告、討論、採決]

会議に付した事件

日程第1 議案第111号

会議に出欠席の議員氏名

出席議員 50名

1	番	川	口	円
2	番	喜	田	健児
3	番	中	瀬	信之
4	番	平	畑	武
5	番	石	垣	智矢
6	番	小	林	貴虎
7	番	山	本	佐知子
8	番	山	崎	博
9	番	中	瀬古	初美
10	番	廣		耕太郎
11	番	下	野	幸助

12	番	田	中	智	也
13	番	藤	根	正	典
14	番	小	島	智	子
15	番	野	村	保	夫
16	番	木	津	直	樹
17	番	田	中	祐	治
18	番	野	口		正
19	番	山	内	道	明
20	番	山	本	里	香
21	番	稻	森	稔	尚
22	番	濱	井	初	男
23	番	森	野	真	治
24	番	津	村		衛
25	番	杉	本	熊	野
26	番	藤	田	宜	三
27	番	稻	垣	昭	義
28	番	石	田	成	生
29	番	村	林		聡
30	番	小	林	正	人
31	番	服	部	富	男
32	番	谷	川	孝	栄
33	番	東			豊
34	番	長	田	隆	尚
35	番	奥	野	英	介
36	番	今	井	智	広
37	番	北	川	裕	之
38	番	日	沖	正	信
39	番	舟	橋	裕	幸

40	番	三 谷	哲 央
41	番	中 村	進 一
42	番	津 田	健 児
43	番	中 嶋	年 規
44	番	青 木	謙 順
45	番	中 森	博 文
46	番	前 野	和 美
47	番	山 本	教 和
48	番	西 場	信 行
49	番	中 川	正 美
50	番	館	直 人

職務のため出席した事務局職員の職氏名

事務局長	坂 三 雅 人
書 記 (事務局次長)	畑 中 一 宝
書 記 (議事課長)	前 川 幸 則
書 記 (企画法務課長)	小 野 明 子
書 記 (議事課課長補佐兼班長)	佐 竹 宴
書 記 (議事課班長)	平 井 利 幸
書 記 (議事課主査)	辻 昌 平

会議に出席した説明員の職氏名

知 事	鈴 木 英 敬
副 知 事	廣 田 恵 子
副 知 事	服 部 浩
危機管理統括監	日 沖 正 人
総 務 部 長	高 間 伸 夫
地域連携部長	山 口 武 美

午前10時0分開議

開 議

- 議長（青木謙順） 本日は休会の日ではありますが、議事の都合により、会議規則第6条第4項の規定に基づき、特に会議を開きます。

諸 報 告

- 議長（青木謙順） 日程に入るに先立ち、報告いたします。
議案第111号が提出されましたので、さきに配付いたしました。
次に、説明のための出席要求につきましては、お手元に配付の名簿のとおり出席を求めました。
以上で報告を終わります。

提 出 議 案 件 名

議案第111号 令和3年度三重県一般会計補正予算（第8号）

議 案 の 上 程

- 議長（青木謙順） 日程第1、議案第111号を議題といたします。

提 案 説 明

- 議長（青木謙順） 提出者の説明を求めます。鈴木英敬知事。
〔鈴木英敬知事登壇〕

- 知事（鈴木英敬） おはようございます。

それでは、議案の説明に先立ち、このたび、9月12日をもちまして知事の職を辞することといたしましたので、一言申し上げます。

先日、来るべき衆議院選挙に立候補し、国政に挑戦することを決断したと

ころですが、現状においては、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、県内の感染状況が厳しさを増しており、また、それを踏まえた三重とこわか国体や三重とこわか大会の開催可否や観客の在り方等の判断など、県政の重要課題への対応が求められています。

このため、新知事就任までの県政の空白期間が生じないように、知事選挙の投開票日となる9月12日を退職日に設定し、今後の残された期間においても、強い決意と使命感を持って、新型コロナウイルス感染症への対応に万全を期して臨むなど、引き続き県政の諸課題に全力を挙げて取り組んでいきます。

県民の皆様への命と暮らしを守るため、感染防止対策の徹底や医療提供体制の維持に取り組むとともに、三重県経済の再生に向けて、社会経済活動の正常化への道筋をつけることにも努めたいと考えておりますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、ただいま上程されました補正予算1件について、その概要を説明いたします。

議案第111号の補正予算は、三重県知事の退職申出に伴い、三重県知事選挙等を実施するため、一般会計で9億1818万6000円を増額するものです。

歳入では、繰入金について、財政調整のための基金でその全額を増額しています。

次に、歳出については、知事選挙の執行に係る経費として8億7499万7000円を、知事選挙に伴い実施する県議会議員補欠選挙の執行に係る経費として4318万9000円を計上するものです。

以上をもちまして提案の説明を終わります。

何とぞよろしく御審議いただきますようお願い申し上げます。

○議長（青木謙順） 以上で提出者の説明を終わります。

休 憩

○議長（青木謙順） 全員協議会開催のため、暫時休憩いたします。

午前10時3分休憩

午後 1 時 0 分開議

開 議

- 議長（青木謙順） 休憩前に引き続き会議を開きます。
議案第111号の審議を継続いたします。

質 疑

- 議長（青木謙順） 本件に関する質疑を行います。

通告がありますので、順次発言を許します。40番 三谷哲央議員。

〔40番 三谷哲央議員登壇・拍手〕

- 40番（三谷哲央） 議長のお許しをいただきましたので、議案第111号につきまして、議案質疑をさせていただきたいと思えます。

まず最初に、この9億円幾らの補正予算、知事が退職されなければ、退職を言わなければ、必要のないお金でありまして、言わば、不要不急とまでは申し上げませんが、この時期、どうしてこのお金が要るのかと、基本的な疑問を覚えざるを得ないということでもあります。

今から2年半前、2019年の4月の知事選挙、知事は61万5281票、得票率にしまして89.7%の大変高い得票をされました。

この数字は、県民の多くが鈴木英敬知事、4年間、この三重県のために働いてくださいね、しっかりと務め上げてくださいね、その期待と県民の思いの結晶の票だと思えます。しかし、今回、知事はそれらの思い、期待を見事に裏切って国政に転ずる、そのように決意されました。

健康上の問題で、任期途中、やむなく退職するという事なら一定理解できます。しかし、今回は、まさに国政に転ずる、知事個人の思い、知事個人の欲求の、その結果じゃないですか。

このような県民への裏切り、知事、どのようにお考えになっているのか、まずその点からお伺いしたいと思います。

〔鈴木英敬知事登壇〕

○知事（鈴木英敬） 今回、私が退職しなければ9億円の支出もないと、それで、今回、個人の欲求で辞めるのではないかということについて、少し答弁させていただきたいと思います。

まず、退職日自体は1か月先、9月12日ということでありまして、これは取りも直さず、現在の新型コロナウイルス対応に万全を期す、県政に空白をつくらない、そして三重とこわか国体の判断もしっかりしていく、そういう思いで1か月先の退職をしたわけでありますけれども、本当に悩みに悩んだ、大きな心の葛藤の末にした決断であります。

これは5月以降、三重第4区の三ツ矢代議士が御勇退を決められ、そして候補者不在の状況が続き、先ほど個人の欲求というお話をいただきましたが、コロナ禍だからこそ、この地域の発展のために尽くしてほしいというお声などもたくさんいただいた。それを踏まえて、悩みに悩んだ末に決断したことでもあります。

そういう意味で、結果として任期を全うできなかったことは、率直に申し訳なく思っておりますし、今回、経費が追加的に支出されることについても、大変重く受け止めています。

その分、以前、少し会見で申し上げましたけれども、まずは退職までしっかり万全を期して責任を果たしていきたいということと、それから、こういう経費が追加的に支出されるわけですが、新しい場で仕事をするお役をいただくことができた後にはしっかり結果で恩返しして、三重県の皆さんに恩恵を感じていただける、発展を感じていただける、幸せを感じていただける、そういうようなことにしっかり貢献することで恩返しをしていきたいと考えております。

〔40番 三谷哲央議員登壇〕

○40番（三谷哲央） 知事は、今日の提案説明におきまして、現状においては新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、県内の感染状況が厳しさを増しており、また、それを踏まえた三重とこわか国体や三重とこわか大会の開

催可否や観客の在り方等の判断など、県政の重要課題への対応が求められている、このように認識されているわけです。

まさに今、三重県は大変な課題に直面している。知事が予定どおり9月12日に退職されるということになりますと、後のことは新しい知事がその結果を受け止めるということになるんですね。

本来ならば、こういう判断をされた方がその結果もしっかりと受け止めて、その責任を果たすということが政治家として当然あるべき姿だと思いますが、いかがでしょうか。

〔鈴木英敬知事登壇〕

○知事（鈴木英敬） 少し改めてになりますけれども、そこの時期に表明したということの理由、幾つかあるうちの、先ほど多くの声をいただいたということをお申し上げしましたが、さらに、この7月頭ぐらいから、私が公式にも非公式にも認める前に報道等で出馬の話などが出ていった。

その中で、新型コロナウイルスの感染状況も厳しくなっている。そういう中で、新型コロナウイルス感染症対応は変わらない。しっかり万全を期して、責任を果たしていきたい。新しい知事との関係で、空白をつくらない。そういうことを早期にお示ししたい、しなければならないと思ったこと。それから、重症化すると大変な命に関わる高齢者の方々のワクチン接種が一定、完了したこと。そして、衆議院選挙の影響などで、三重とこわか国体や三重とこわか大会中に知事が不在となることを回避したい。そういう思いから、この時期の表明となりました。

先ほど三谷議員からおっしゃっていただいたように、任期も4年あるわけですから、最も美しいあるべき姿、ベストの姿は、前の一般質問か代表質問で三谷議員ともやらせていただきましたが、それは最も、ベストは、判断した者とその場にいる者が同一であることだと私も思います。

しかし、先ほど申し上げたような様々な事情、特に先ほど三重とこわか国体と三重とこわか大会中に衆議院選挙の影響で知事不在を回避するという事なども考えて今回の表明となり、そういう意味では、そのあるべき姿とい

うことを実現することは私はできませんでしたが、少なくともその前のところの判断を的確に行い、万全を期し、責任を果たして、空白をつくらず、次の知事の方に受け継いでいきたい。

そしてまた、国体の主催者は、また、あるいは新型コロナウイルス感染症対応も、国体にしたら三重県でありまして、私ももちろん最終責任者としてしっかりやらなければならないんですけれども、組織一丸となってやっていけるようにそういうところの道筋もつけていくことで、ベストの姿ではないかもしれないけれども、それに近づける、そういう責任をしっかりと果たしていきたいと思います。

〔40番 三谷哲央議員登壇〕

○40番（三谷哲央） 今はここで私が翻意を促したところで、知事の考え方や決意が変わるとは思っておりません。

鈴木知事県政が始まってちょうど10年、この本会議場や、また、総括質疑等の場で、幾度となく知事とは議論を交わさせていただきました。いろんな思い出なり思いが現在ございます。

9月12日には知事鈴木英敬が辞職される。鈴木英敬知事といえども辞職をすれば、ただのおっさんになるわけです。しかしながら、大変能力のある方ですから、恐らくこれからも全国でいろいろ御活躍をいただけるんだろうと思います。

とりわけ三重第4区を除いて、どのような地域で御活躍をいただこうとも、大所高所からこの三重県政の発展、県民の幸せのためにお力添え、御尽力いただくことを心から御祈念申し上げまして、質疑を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

○議長（青木謙順） 21番 稲森稔尚議員。

〔21番 稲森稔尚議員登壇・拍手〕

○21番（稲森稔尚） きれいにまとまったところでやりにくいんですけれども、伊賀市選出、草の根運動いがの稲森稔尚でございます。

議案第111号、知事選挙、県議補欠選挙に向けた補正予算9億1818万6000

円について質疑を行います。

今回の補正予算のうち、まず、それぞれの内訳を簡単に説明していただきたいと思います。

市町を含めた人的な負担、これをどのように見ているのか伺います。また、今回の知事の辞職によって、知事選挙と私たちの県議会議員選挙は同日選挙にならなくなります。そのことに伴って幾ら負担が増えるのか、その点についても伺いたいと思います。

〔山口武美地域連携部長登壇〕

○**地域連携部長（山口武美）** それでは、私から予算の内訳等について、まず、財政負担という観点でお答えさせていただきます。

今回の知事選挙、県議会議員補欠選挙に要する経費は県の一般財源で賄われており、国の国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律に基づく積算方法や単価により、市町や県の基準額を算出しているところでございます。

今回の選挙に要する経費の補正予算としまして約9億2000万円ほどを計上していますが、その内訳は、知事選挙に要する経費が約8億7000万円、県議補欠選挙に要する経費が約4000万円となっています。

県が執行する部分につきましては、投票用紙の印刷、選挙公営費、選挙啓発費や人件費などで、知事選挙分が約5000万円、県議会議員補欠選挙分が約1000万円で、合わせて約6000万円を計上しているところでございます。

また、市町に対しましては、投票所や開票所に要する経費、ポスター掲示場の設置に要する経費、演説会施設公営費等のほか、市町職員の超過勤務手当や選挙啓発などの事務費について交付することとしており、知事選挙分が約8億2000万円、県議の補欠選挙分が約3000万円で、合わせて約8億5000万円を計上しており、大体これで予算額全体の93%となるところでございます。

それで、選挙が別々に行われることによる経費の増はということかという話がありましたので、それについてもお答えさせていただきます。

これまで、知事選挙と県議選挙を統一地方選挙として同日に行ってきたところではございますけれども、今回、別々に行われることになり、平成31年

度の統一地方選挙と比較をしまして、知事選が約1億4000万円の増、それと、県議選が約5億4000万円の増で、合わせて大体6億8000万円ぐらいの増になるところでございます。

増額となる主な要因につきましては、知事選挙と県議会議員選挙が分けて行われることにより、投開票に係る運営経費や人件費等を個別に計上する必要が生じたことによるものでございます。

〔富永 健選挙管理委員会委員登壇〕

○選挙管理委員会委員（富永 健） 私からは、人的負担についてお答えいたします。

知事選挙、県議会議員補欠選挙に要する非常勤職員を含めた事務従事者数は、国の国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律により基準が示されていますが、県選挙管理委員会では、投票用紙の印刷、選挙公営費、選挙啓発費、投開票速報などでの延べ400人程度にわたっております。

市町選挙管理委員会では、過去の実績や新型コロナウイルス対策などの新たな要因を踏まえて必要人員を確保していただいております。県として市町選挙管理委員会における人数の把握はしていませんが、国の基準によりますと、投票所、開票所の運営などに当たっていただく従事者や事務局職員数が全市町で合計延べ1万3000人程度となっております。

以上でございます。

〔21番 稲森稔尚議員登壇〕

○21番（稲森稔尚） 今回の知事が辞職することによって発生する経費9億円、それから、同時選挙じゃなくなるということで、6億8000万円ほどの増がこれからもずっとかかっていくということで御答弁がありました。

それから、市町は県民の皆さんの一番近いところで、これからも新型コロナウイルスの対応なり、あるいは三重とこわか国体・三重とこわか大会の対応で大変な中で、これから選挙に駆り出されるということでもあります。

今回の知事がお辞めになるということなんですけれども、私は知事とこうやって議論させていただいて、これからも活躍されるとおっしゃっています

けれども、やはりそれは県民党であるというところを掲げている知事だからこそ、前向きな気持ちで議論もさせていただいたなと思っています。

今回、県民党という看板を知事は、もう早くも現職知事でありながら外されました。一つの政党に、自由民主党の黨員になるという判断をされました。

60万人ですか、投票された方も含めて多くの県民への、これは裏切りだと思っています。私自身もそう、非常に残念に思っています。

その点についてどのように説明されるのか伺います。

〔鈴木英敬知事登壇〕

○知事（鈴木英敬） まず、負担のことと、それから政党との関係のことについて、少し答弁させていただきたいと思います。

先ほど三谷議員にも申し上げましたとおりでありますけれども、経費が追加的に支出されること、また、人員、県や市町の職員の皆さんにこの選挙事務に当たっていただかなければならない、そういう負担がかかることについては、先ほど申し上げましたとおり、大変重く受け止めています。

先日の会見でも少し申し上げましたが、その分、まずしっかり退職まで対応、責任を果たしていくということと、それから、その後、もしそういう形で仕事する立場をいただきましたら、しっかりその結果で恩返しをしていくということでもあります。

先ほど三谷議員のお話にもありましたけれども、私は知事という職でできる、使える財源や制度、そういう道具が替わっても、それは国の制度や財政などを使いながらということになると思いますけれども、三重県のため、三重県民の皆さんのために尽くすというところは全く変わらないと思っておりますので、そういう形で恩返しをしていきたいと、今回の支出や負担などについてもその恩返しをしていきたいと思っています。

それから、県民党との関係については、まさに2019年の選挙に出るときは県民党として出させていただき、今回は衆議院議員選挙で自由民主党公認の候補者として出ることを、今手続を行っているところでありますから、立場が変わるということについては、もともと県民党だから応援したのにと

方の気持ちはそのままかなえることができなかったという点においては、私自身も大変重く受け止めておりますし、率直に申し訳なく思います。

一方で、政党は自由民主党という形になれども、先ほど言いましたように、国の予算や制度などを使いながらも、そういう立場にならせていただいたらという前提でありますけれども、そこでこの県全体の発展とか県民の皆さんの幸せにつながるようなことをやっていくことで、結果としてあのときの判断は間違っていなかったなと一人でも多くの方に思っただけのように、謙虚に真摯に努力をしてまいりたいと考えております。

〔21番 稲森稔尚議員登壇〕

○21番（稲森稔尚） 知事が立候補するということを表明されてからも、8月6日には感染者の数が97人ですか、過去最多になったりとか、病床使用率が50%を超えて、本当に日々、新型コロナウイルス感染症や国体の対応で深刻な県政の重要な課題がある中で、知事はそうおっしゃいますけれども、そんなことをおっしゃらずに、辞職を撤回すると、そうされてはどうですか。

やはりこの緊急事態とも言える事態だからこそ、県民の先頭に立って命と暮らしを守っていくと、これこそが良識あるリーダーの姿だと私は期待しているんですけれども、いかがですか。

〔鈴木英敬知事登壇〕

○知事（鈴木英敬） 先ほども三谷議員のときに答弁させていただきましたが、1か月先の退職という形で、かつ、今回、悩みに悩み、悩みに悩んで、大きな葛藤のある中で決断したものであります。

県民の側の、県民の皆様というか、お声をいただいた方々の中には、コロナ禍だからこそ、現場や地方を十二分に熟知をしている人間として、三重県や三重県民の発展、幸せのために新たな立場で頑張っしてほしいとおっしゃっていただいている声もあり、そういうことを踏まえて、また、先ほど申し上げたいろんな新型コロナウイルス感染症対応を、万全を期すということなどもありますので、ここで撤回ということはさせていただくことはありませんけれども、先ほどと少し重複しますが、短期的にはいろんな御意見があつて、

それを私も重く受け止めておりますけれども、中長期的には、後で振り返って、あのときコロナ禍だったけれども、その後現場や地方の声が届いて、そして三重県の発展につながったねと県民の皆さんにおっしゃっていただけるように真摯に努力をしていきたいと思っております。

〔21番 稲森稔尚議員登壇〕

○21番（稲森稔尚） これで終わりますけれども、県民を置き去りにして、知事選挙を今やっている場合ではないということを申し上げて、それから、暑いので体には気をつけていただいて、終わりたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

○議長（青木謙順） 以上で、議案第111号に関する質疑を終了いたします。

議 案 付 託

○議長（青木謙順） お諮りいたします。本件は、お手元の配付の議案付託表のとおり、予算決算常任委員会に付託し、会議規則第36条第1項の規定により、本日午後4時30分までに審査を終えるよう期限をつけることといたしたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（青木謙順） 御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

議 案 付 託 表

予算決算常任委員会

議案番号	件 名
1 1 1	令和3年度三重県一般会計補正予算（第8号）

休 憩

○議長（青木謙順） 予算決算常任委員会の開催のため、暫時休憩いたします。
午後1時24分休憩

午後 2 時14分開議

開 議

○議長（青木謙順） 休憩前に引き続き会議を開きます。

諸 報 告

○議長（青木謙順） この際、報告いたします。

付託議案の審査報告書が、予算決算常任委員長から提出されましたので、お手元に配付いたしました。

以上で報告を終わります。

予算決算常任委員会審査報告書

議案番号	件 名
1 1 1	令和3年度三重県一般会計補正予算（第8号）

本委員会において、上記の議案審査の結果、原案を可決すべきものと決定した。

よって、ここに報告する。

令和3年8月11日

三重県議会議長 青木 謙順 様

予算決算常任委員長 石田 成生

委 員 長 報 告

○議長（青木謙順） 議案第111号の審議を継続いたします。

本件に関し、予算決算常任委員長から、委員会における審査の経過と結果について報告を求めます。石田成生予算決算常任委員長。

〔石田成生予算決算常任委員長登壇〕

○予算決算常任委員長（石田成生） 御報告申し上げます。

予算決算常任委員会に期限をつけて審査を付託されました議案第111号令和3年度三重県一般会計補正予算（第8号）につきましては、本日、該当の分科会で詳細な審査を行った後、本委員会を開催し、関係当局の出席を求め、慎重に審査いたしました結果、賛成多数をもって原案を可決すべきものと決定いたしました。

以上、御報告申し上げます。

○議長（青木謙順） 以上で委員長報告を終わります。

委員長報告に対する質疑の通告は受けておりません。

討 論

○議長（青木謙順） これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、発言を許します。

21番 稲森稔尚議員。

[21番 稲森稔尚議員登壇]

○21番（稲森稔尚） 伊賀市選出、草の根運動いがの稲森稔尚です。

私は議案第111号、三重県一般会計補正予算案（第8号）、知事の退職申出により、知事選挙と県議補欠選挙を行う経費9億1818万6000円に反対の立場から討論を行います。

新型コロナウイルス感染者数は、8月6日には過去最多の97人を数え、10日には病床使用率50%を超えています。

三重県は新型コロナウイルス緊急警戒宣言を発出し、さらには、新たなまん延防止等重点措置の適用に向けた検討を行っているとのこと。

9月には、三重とこわか国体の開催可否も含めて、市町とともに厳しい判断が迫られる状況でもあります。

今、県政がなすべきことは言うまでもなく、県民の命と暮らしを守ることであり、医療体制や地域経済を支えるために総力を挙げるときです。ワクチン接種や国体準備に奔走する市町の職員の皆さんからは、ため息やあきれた

ような声もお聞きしてきました。

真っ先に地域住民に寄り添う県内市町、基礎自治体にも多大な負担をかけて知事選挙を行うことは、決して賛否両論などということで済まされるものではなく、知事選挙を行っている場合ではない、県民の命と暮らしを守れ、任期半ばでの国政進出は県民を置き去りにするものだとの県民の戸惑いや怒りや厳しい声は、多数の正直な思いではないでしょうか。辞職する期日にかかわらず、今、知事選挙を行うこと自体が、深刻さを増すコロナ禍において、県政の空白をつくることにほかなりません。

本来は県民を支えるために使われるべき約9億円の選挙費用の支出は、知事選挙と県議選挙が同日選から外れることによって、約6億8000万円が余分にこれからもかさみ続けることにもなります。現職知事でありながら県民党の看板を外し、幅広い県民の思いからはかけ離れた知事の辞職によって、9億円もの貴重な税金を費やすことは納得できません。緊急事態とも言える局面だからこそ、その先頭に立って、県民に不安な思いにさせないことが良識あるリーダーの取るべき道だというふうに確信しています。

知事の今回の判断には全く賛同できないこと、そして、私たちはあらゆる場面で、県民を見ずして、県民の思いとかけ離れた物事の決め方をしてはならないということを申し上げて、反対討論といたします。ありがとうございました。

○議長（青木謙順） 以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（青木謙順） これより採決に入ります。

議案第111号を起立により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案を委員長の報告どおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（青木謙順） 起立多数であります。よって、本案は委員長の報告どお

り可決されました。

これをもって本日の日程は終了いたしました。

休 会

○議長（青木謙順） お諮りいたします。明12日から9月7日までは休会といたしたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（青木謙順） 御異議なしと認め、明12日から9月7日までは休会とすることに決定いたしました。

9月8日は定刻より会議を開きます。

散 会

○議長（青木謙順） 本日はこれをもって散会いたします。

午後2時21分散会